



東京歯科大学広報



東歯祭を盛り上げたピバノスケと千葉ロッテマリーンズ・マー君ファミリーと一緒に
：平成23年10月29日（土）、千葉校舎講堂前

第43回東歯祭開催

第43回東歯祭が平成23年10月29日（土）・30日（日）の2日間にわたり開催された。今年には井上高暢実行委員長（3年）を中心に実行委員約20名の精鋭が一丸となって企画・準備・運営にあたった。両日も穏やかな天候に恵まれて、地元千葉に本拠地を置く千葉ロッテマリーンズからマー君ファミリーと公認チアリーディングチーム：M☆Splash !! がじゃんけん大会やダンスショー、千葉西高等学校吹奏楽部の演奏や近隣の児童によるちびっこダンス等の参加協力もあり、

東歯祭を盛り上げた。展示部門・模擬店・お笑いライブも例年通りの盛況をみせ、2日間で約2,500名を動員した大学祭となった。

■天候に恵まれた東歯祭

29日（土）の午前中は、千葉ロッテマリーンズからマー君ファミリーとチアリーディングチームM☆Splash !! がじゃんけん大会・ダンスショーなどで盛り上がり、午後にはちびっこダンス・千葉西高校吹奏楽部の演奏と続き、近隣住民のファ

2011年10・11月

251号

本号の主な内容

・第43回東歯祭開催	1
・訃報 田熊庄三郎名誉教授ご逝去	14
・平成23年度沖縄歯科巡回診療報告	15
・浅井康宏名誉教授 瑞宝中綬章を受章される	18

ンも多く大勢の観衆を魅了した。BIG BAND JAZZ、MLSとダンス部も日ごろの練習の成果を発揮した見ごたえのあるステージとなった。

30日(日)は千葉校舎講堂において「Wエンジン」「キングオブコメディ」「フォーリンラブ」「鬼ヶ島」のお笑いライブが行われた。また、前日と同様に管弦楽部の公開リハーサルなど各クラブの催し物が途切れることなく開催された。

また、例年好評を得ている大学院学生会による



千葉ロッテマリーンズ・唐川投手のサイン色紙をかけてじゃんけん大会：平成23年10月29日(土)、千葉校舎厚生棟前ステージ



最高のパフォーマンスで観客の視線を釘づけ：平成23年10月29日(土)、千葉校舎講堂



学内外に多くのファンを持つBIG BAND JAZZの生演奏：平成23年10月29日(土)、千葉校舎厚生棟前ステージ

「無料歯科相談」、歯科衛生士専門学校による「ブラッシング指導」には、老若男女の来場者の関心を集め大盛況であった。



来場者に正しい歯磨きを丁寧に指導する衛生士校の学生：平成23年10月29日(土)、千葉校舎教養棟



お笑いライブの整理券を手に入れ喜び学生：平成23年10月30日(日)、千葉校舎講堂前



校舎を震わす大音響の演奏で盛り上がる学生たち：平成23年10月30日(日)、千葉校舎厚生棟前ステージ

■展示部門

「講座・研究室展示」は、昨年以上に来場者が多く盛り上がりを見せた。

例年通り解剖学標本室は、普段見られない貴重な資料を見ることができるということで来場者が必ず立ち寄る人気のスポットとなっている。

また、「クラブ展示」も同様に行われた。国際医療研究会の展示は毎年工夫が施されており、延世大学校歯科大学との学生交流、コンピュータ部・写真部の作品展示など一生懸命に活動している各クラブの姿を見てもらえるよい機会だった。



8月に訪韓した学生交流の様子を来館者に伝える学生：平成23年10月29日（土）、千葉校舎教養棟



英語ポスターコンペティション入賞の学生：平成23年10月30日（日）、千葉校舎教養棟

■模擬店

今年も東歯祭の名物・模擬店が15店出店され、変わらない伝統の味で勝負するクラブと斬新な味で勝負するクラブがはっきりと分かれた。



“まいど”、ラグビー部の本場・関西のいか焼きどないでっか：平成23年10月29日（土）、千葉校舎管理棟玄関前

ラグビー部の「いか焼き」、少林寺拳法部の「タコ焼き」、MLSの「ケバブ」などが繁盛店となっていた。

どのクラブも販売方法などを独自に考えて、一個でも多く品物を販売しようと頑張っていた。



衛生士校伝統・愛情たっぷりの焼きそばをどうぞ：平成23年10月29日（土）、千葉校舎厚生棟前



本格ピッツアであなたのハートにホールインワン：平成23年10月29日（土）、千葉校舎管理棟玄関前



おもてなしの心で来客者に清々しいひと時を与えた茶道部員：平成23年10月29日（土）、千葉校舎厚生棟

■バザー部門

東歯祭で行われるバザーは、毎年近隣住民の方々から好評を得ている。本学の教職員・学生が様々な品物を持ち寄り格安の値段で提供してい

る。新品同様の日用品や高級衣料品に交じって生物(エビ)の出品などもあり2日間賑わいを見せていた。昨年は台風の影響で大量の在庫を抱えていたが、今年は天候に恵まれたこともあり多くの品物を販売することができた。

なお、このバザーの収益金は昨年と同様に全額SHARE(国際保健協力市民の会)に寄付する予定となっている。



雑多な品物を手際よく販売するバザー担当の学生：
平成23年10月30日(日)、千葉校舎体育館

■後夜祭

30日(日)午後5時より、教養棟第5教室において井出吉信学長をはじめとする大学幹部および教職員、鳩貝尚志父兄会長ご出席のもとに後夜祭が行われた。初めに、井上高暢実行委員長が挨拶に立つと会場から大きな拍手が起こった。「先輩、同期、後輩のみんなに支えてもらった。」と繰り返した挨拶が印象に残った。

井出学長より挨拶と総評が述べられた後、鳩貝父兄会長より来賓挨拶をいただいた。続いて、クラブ展示部門、講座・研究室展示部門、模擬店部門の優秀団体を佐藤亨学生部長が発表、井出学長から賞状が授与された。今年の英語ポスターコンペティションは井上高暢君(3年)が最優秀賞を受賞した。(表彰団体・表彰者は下記のとおり)

最後は、教職員・学生が声を合わせて校歌を斉唱して無事に全日程を終了した。

■各部門賞

クラブ展示部門

- 第1位 国際医療研究会
- 第2位 延世大学校歯科大学との学生交流
- 第3位 美術白亜会
- 第4位 写真部

第5位 コンピュータ部

参加講座・研究室展示部門

スポーツ歯学研究室

生理学講座

模擬店部門

第1位 自動車部 「ポップコーン」

第2位 スキー部 「チヂミ」

第3位 バスケットボール部 「たません」

英語ポスター掲示

○undergraduate部門

最優秀賞 井上高暢(3年)

優秀賞 滝沢友里香(3年)

星野立樹(4年)

○postgraduate部門

優秀賞 黒川英孝(大学院3年)

■「東歯祭を終えて」

東歯祭実行委委員長 井上高暢(3年)

10月29日(土)、30日(日)に開催された、第43回東歯祭。震災の影響で準備のスタートが遅れ、間に合わせるために大変でしたが、多くの人にささえられて無事成功を収めることができました。

今年の東歯祭のテーマは「真」-shin-で、物事に真っ直ぐ、真面目に、真摯に取り組もうという意味を込めました。今年の東歯祭は、千葉ロッテマリーンズのチアリーダーM☆Splash!!のステージという新しい企画も試みたところ、2,501人という多くの方々にご来場いただきました。

今回の東歯祭はみんなの協力があつたからこそ成功させることができました。そして力を合わせて何かやろうと思えば、なんでもできてしまうという事も知りました。先生方、大学職員の方々、実行委員のみんな、各クラブの人たち、さらに出席番号が連番というだけで東歯祭に全く関係のない友達にも手伝っていただきました。

各クラブの人たちが発表のために毎日11時を過ぎても練習しているところを見ると、思わず泣きそうになりました。一生懸命準備をしている人がいるのに、僕たち実行委員が全力で準備しないわけにはいかない、彼らに最高の発表の場を提供してあげたいという気持ちでいっぱいでした。

東歯祭のステージが、各クラブの人たちに最高の発表の場であった、と思ってもらえたら嬉しいです。

今後、大学が移転していく中、どのような開催形態をとるかはわかりませんが、これからも東歯祭は永遠に学生が楽しむことのできる、日頃の成果の発表の場であってほしいと願っております。

「あきらめなければ何でもできる。」

その言葉とともに後輩にバトンを渡したいと思えます。東歯祭に協力して下さった方々に感謝申し上げます。本当にどうもありがとうございました。

充実感いっぱいの笑顔で。頑張った実行委員全員揃って
記念撮影：平成23年10月30日（日）、千葉校舎厚生棟



学内ニュース

■市川総合病院 第15回市民公開講演会開催

市川総合病院において毎年開催している市民公開講演会が、平成23年10月1日（土）午後2時より、市川グランドホテルにおいて開催された。

「賢い眠りで確かな健康!-油断できないそのイビキ-」と題し、次の各テーマに分け、それぞれに講演者を立て、実行委員長である中島庸也耳鼻咽喉科部長の司会進行のもと行われた。

1. 「健やかに眠るための基礎知識」

林田健一（スリープ&ストレスクリニック院長）

2. 「あなたの“いびき”は大丈夫??」

ーたかが“いびき”、されど“いびき”

佐藤 誠（筑波大学人間総合科学研究科
次世代医療研究開発・教育統合センター
睡眠医学寄附講座 教授）

3. 「日中の眠気!?先ずは市川総合病院の耳鼻咽喉科へ」

中島庸也（東京歯科大学市川総合病院
耳鼻咽喉科 教授・部長）

4. 「マウスピースで解決!?!いびき予防!!」

有坂岳大（東京歯科大学市川総合病院
オーラルメディスン・口腔外科学講座 助教）

5. 「安眠のためのアゴ（顎）の手術って?」

外木守雄（東京歯科大学水道橋病院
口腔健康臨床科学講座（口腔外科） 准教授）

6. まとめ

中島庸也（東京歯科大学市川総合病院
耳鼻咽喉科 教授・部長）

それぞれの専門分野から、市民の皆様が日頃から疑問に思っていることや心配していることについて、丁寧にわかりやすく講演が行われた。100名を超える入場者からは、大いに関心が寄せられ、質疑応答も活発に行われ、市民公開講演会は盛会のうちに終了した。



開会の挨拶をする中島実行委員長：平成23年10月1日（土）、市川グランドホテル

■入試ガイダンス開催

東京歯科大学への入学を希望する受験生を対象として、入試ガイダンスが10月2日（日）午後1時より、水道橋校舎13階のルームAにおいて開催された。

ガイダンスは、法人類学研究室の橋本正次教授による「人間ってなあーに?」と題した模擬授業から始まり、液晶プロジェクター・ビデオ等を用いて、東京歯科大学の教育理念や教育カリキュラム、国家試験合格状況、学生生活、卒後進路状況、平成24年度入学試験の概要、入試科目のポ

イント等について説明があった。推薦入学選考を目前に控え、受験生は本学の情報を入手しようと熱心に説明を聞いていた。特に橋本教授の模擬授業は、受験生にもわかりやすく、人類の口腔内の進化や実際に検体をされた際の経験について説明があり熱心に聞き入っていた。

最後に希望者を対象に教務部・学生部の教職員との個別面談を実施した。80名もの参加があり、大盛況のガイダンスとなった。

次の入試ガイダンスは、12月17日(土)に水道橋校舎で実施する予定である。



模擬授業を行う橋本教授：平成23年10月2日(日)、水道橋校舎13階ルームA

■臨床実習中の効果的なカリキュラム作成・実施の為のワークショップ開催

平成23年10月8日(土)、9日(日)水道橋校舎14階において、臨床実習中の効果的なカリキュラム作成・実施の為のワークショップが開催された。本ワークショップは水道橋移転に伴い授業形態の変化が求められるなかで、短期的と中長期的な対応の2つの目的に分類し実施した。まず短期的な対応として臨床実習中の教育に基礎系教員も参加し、基礎系・臨床系の知識(想起・解釈・問題解決)を定着させるためのカリキュラム・プランニングを行い、次に中長期的な対応として、臨床実習中に「患者中心の歯科医療」を更に深化させることを目指し、7月に大学と同窓が一体となり開催された、「学外臨床実習ワークショップ」で検討されたカリキュラムと今回の短期的な対応の内容を基とした、歯科医師臨床研修により効果的につなげるための態度・技能の定着を図るカリキュラム・プランニングを行ったものである。

今回はスタッフと各科の代表者を合わせ22名が集まり、問題点の抽出、各科の現状、カリキュ

ラムの作成(短期的対応)、カリキュラムの修正(短期的対応)、カリキュラムの作成(中長期的対応)、総合討論の6つのセッションからなるプログラムが実施された。

今回作成されたカリキュラムは各会議体の承認を経て、評価・報告機能を保ちながら全学的に取り組まれているところである。



グループ討議風景：平成23年10月9日(日)、水道橋校舎14階

■第292回東京歯科大学学会総会開催

平成23年10月15日(土)・16日(日)の両日、千葉校舎と水道橋校舎で第292回東京歯科大学学会総会が開催された。

第1日目の口演は第1・2教室、示説は第2ラウンジを会場として発表された。今回発表された口演は26題、示説は16題であった。午後からは平成23年度東京歯科大学学会評議員会・総会が第1教室で、引き続き同教室で「トランスレーショナルリサーチの現状」と題した姉妹校合同シンポジウムが開催された。また、11商社の参加による商品展示が第1ラウンジで行われた。

第2日目は水道橋校舎の13階大教室を会場として、午前中は以下の教育講演2題と

1. 「歯科用コーンビーム (CBCT) による画像診断のパラダイムシフトと今後の展望」
佐野 司 教授 (東京歯科大学歯科放射線学講座)
2. 「医療経済の環境変化と歯科医院経営の課題」

木村泰久氏 (株式会社M&D医業経営研究所 代表取締役社長)

午後からは今年度末で定年を迎えられる三教授の特別講演が以下のように行われた。

1. 「保存修復と保険診療」
槇石武美 教授 (東京歯科大学口腔健康臨床科)

学講座)

2. 「病院の機能とその評価」

森下鉄夫 教授 (東京歯科大学内科学講座)

3. 「超高分解能電子顕微鏡の世界－脱灰と再石灰化－」

柳澤孝彰 教授 (東京歯科大学口腔超微構造学講座)

なお、7社社の参加による商品展示が13階で行われた。



平成23年度東京歯科大学学会評議員会・総会：平成23年10月15日 (土)、千葉校舎第1教室

■【テーマA】360度フィードバックのための研修ワークショップ開催

平成23年10月22日(土)午前9時40分より、水道橋校舎13階ルームBおよびセミナー室において、第4回360度フィードバックのための研修ワークショップが開催された。本ワークショップは、文部科学省の平成21年度大学教育・学生支援推進事業【テーマA】大学教育推進プログラムで選定された本学の取組「個々の患者ニーズに応えられる歯科医師養成～高い倫理観とコミュニケーション能力に基づく総合診療計画立案能力の向上～」における評価・フィードバック体制の軸となる研修であるとともに、本学のFD活動の一環として実施するものである。本取組は、「コミュニケーション教育」と「医療倫理教育」をさらに発展させ、「総合診療計画立案能力養成プログラム委員会」の発足と「ペイシェント・コミュニティー(P-Com)」の設立を軸としており、これらにより、国民が求める高い人間力と行動特性を持った医療人を養成しようとするものである。

今回は、9月に実施した第3回からブラッシュアップした内容で、ワーキンググループの委員を中心としたタスクフォースと、本取組の中心の

メンバーとなる参加者が集まった。

終了後、参加者からは「実際に医療機関のコンサルティングを手掛けているプロの方の話を聞いたのがよかった」、「360度フィードバックが実際に本学においてどのように機能するか、あるいは機能され得るのかを具体的に理解し体験できた」等の意見が挙げられた。

第1回から第4回までの本ワークショップにおいて合計81名が参加した。本学における360度フィードバックとは、「個々の患者ニーズに応えられる歯科医師」を目指す過程での評価者の期待値に基づく評価であり、本取組の評価・フィードバック体制の軸として推進する。学生の気づきと成長を促すために、学生生活を通じた「歯科医師」としての行動を評価・フィードバックして、「個々の患者ニーズに応えられる歯科医師」を全学的に育成していく。



全体討議風景：平成23年10月22日(土)、水道橋校舎13階ルームB

■第106回歯科医学教育セミナー開催

平成23年10月24日(月)午後6時より、千葉校舎第2教室において、第106回歯科医学教育セミナーが開催された。今回は、「初年次教育の現状と今後について」と題し、教養科目協議会幹事の橋本正次教授より、報告が行われた。

本学も含め、近年、ゆとり教育や、少子化社会における志願者確保の動きによる影響で、学力レベルの低下や生活態度の悪化が問題視されるようになった。それに伴い、重要視されてきた「初年次教育」に関し、雑誌等に取り上げられていた諸大学の「初年次教育」の動きを紹介するとともに、本学で従来実施されてきた、また新たに実施された「初年次教育」に関して報告がなされた。

春に、新入生を対象に実施した基礎学力テスト

において学力が二極化しているとの報告があり、従来通り、6年間で患者に信頼される歯科医師・社会人に育て上げるために、教養における初年次教育に必要と思われる①語学教育のクラス編成(日本語力・文章力の向上)②「歯科医学概論」・「健康学」等のあり方③評価方法について、1、2年生にアンケートを実施するなどワークショップ作業グループで検討してきた旨説明があった。また、新たな取組みとして、「自然科学演習」による数学・理科系科目の補習の徹底や日本語教育を主とした「教養セミナー」の実施報告が行われた。今年度の教育ワークショップ報告会時点では、実施途中であったため、具体的な内容・結果までは触れられておらず、今回初めて報告された内容が多々あり非常に興味深い内容であった。

最後に、今後の方向性として、既存の授業の見直しや新設したもののさらなる充実化、また評価方法等の改正を進めるとともに、教員側の変化の必要性が掲げられた。

今回の教育セミナーは、教養の取組みを知る良い機会となり、また、本学における、今後の「初年次教育」のさらなる充実が期待できる内容であった。



説明する橋本教授：平成23年10月24日(月)、千葉校舎第2教室

■第334回大学院セミナー開催

平成23年10月27日(木)午後5時40分より、千葉校舎第2教室において、第334回大学院セミナーが開催された。今回は東京大学大学院医学系研究科 軟骨・骨再生医療寄附講座 星 和人特任准教授をお招きし、「足場素材導入による軟骨再生医療の新展開—唇裂鼻変形に対するインプラント型再生軟骨による治療」と題した講演を伺った。

軟骨組織はいったん損傷すると自然には治癒し

ないためこれまでは対症療法しかなく、軽度の症状に対しては消炎鎮痛剤やヒアルロン酸などによる薬物療法、重篤な損傷に対しては骨軟骨柱移植や人工関節置換などによる手術療法が、それぞれ用いられてきた。薬物療法は原因となる軟骨損傷を根治するものではなく、治療を止めると症状が再発するという問題点があった。人工関節には耐用年数があり、永続的な治療とはなり得なかった。

現在、星先生が研究なさっている軟骨再生治療は患者自身の軟骨細胞を利用するため免疫拒絶反応のリスクが低く、またポリ乳酸(PLLA)多孔体という足場素材を使用するため適度な剛性を保つことができるというものである。具体的には耳介軟骨組織を少量(約 $1 \times 0.5 \times 0.2$ cm)採取し、それを患者自身の血清、FGF-2、そしてインスリンを添加したDMEM/F12培地で平面培養させる。約1週間ごとに継代培養していくと軟骨細胞としての性質を維持したまま3~4週間で約1000倍にまで増殖する。次に、この移植に十分な量まで増殖した軟骨細胞をアテロコラーゲンハイドロゲルと混和させ、さらにこれをポリ乳酸(PLLA)多孔体に含有させる。これがインプラント型再生軟骨である。また、足場素材としてPLLAと共に乳酸とグリコール酸との共重合体(PLGA)も一般的であるが、このPLGAの場合はPLLAを用いた再生軟骨と比較して、移植後2週における組織ヘモグロビン量や炎症性サイトカイン量が有意に高くなっており、組織反応が惹起されやすい特性を有することが示唆されたため再生軟骨の足場素材としてはPLLAを採用している。このようにして作製したインプラント型再生軟骨を鼻変形を伴う口唇口蓋裂患者の鼻に移植し治療を行っており、



講演される星特任准教授：平成23年10月27日(木)、千葉校舎第2教室

現在1症例実施されている。今後さらに2症例が実施される予定である。

■第6回東京歯科大学公開講演会開催

平成23年11月5日(土)午後2時より、千葉校舎講堂において、第6回東京歯科大学公開講演会が、地元千葉市美浜区真砂の関係団体(真砂地区コミュニティづくり懇談会、千葉市社会福祉協議会真砂地区部会、千葉市第31地区町内自治会連絡協議会)との共催で開催され、美浜地区を中心に178名が来場した。

なお、今回の講演会は、平成23年9月から12月に千葉市内各所で開催される「千葉市科学フェスタ2011」のサテライトイベントの一環としても参加することとなった。

当日は、橋本貞充広報・公開講座部長の司会・進行のもと、本学より柳澤孝彰副学長、そして共催団体を代表して成田英雄会長よりご挨拶をいただき、次の3講演が行われた。

講演①『口の中ってどうなっているの？』

なぜ口の中にもがんができるの？』

臨床検査病理学講座 松坂賢一 准教授

講演②『口腔がんのセルフチェック…』

こんな症状は注意が必要です。』

口腔がんセンター長 片倉 朗 教授

講演③『口腔がん検診 千葉発、全国へ』

口腔外科学講座 山内智博 講師

講演①では、口の中の構造とがんの成り立ちやその検査方法について、講演②では、口腔がんの初期症状や、日頃からのセルフチェックの方法、また、タバコやお酒が口腔がんにどのように関わっているかについて、講演③では、口腔がん検診の概要と、発見された時どのような流れで治療



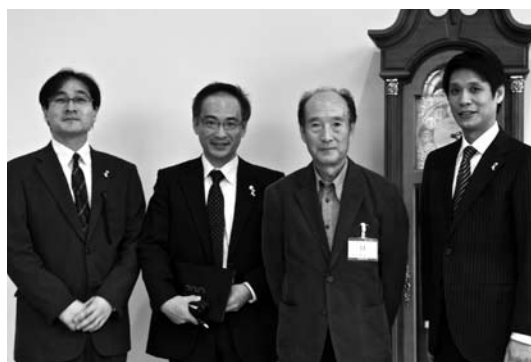
公開講演会の風景：平成23年11月5日(土)、千葉校舎講堂

に入るのかなどについて、わかりやすく説明があり、講演終了後には活発な質疑応答も行われ、午後4時に盛会のうちに終了した。

参加者アンケートでは「大変わかりやすく興味深い内容で参考になった」、「口腔がんや検診に対する意識やPRがもっと必要と思った」、「このような公開講演会を継続して実施して欲しい」などの意見がよせられた。



講演する松坂准教授：平成23年11月5日(土)、千葉校舎講堂



右より、片倉教授、成田会長、松坂准教授、山内講師：平成23年11月5日(土)、千葉校舎講堂

■第335回大学院セミナー開催

平成23年11月10日(木)午後5時40分より、千葉校舎第2教室において、茨城大学人文学部磯田道史准教授を講師にお招きし、第335回大学院セミナーが開催された。

先生のご専門は近世から近代の日本史。慶應義塾大学文学部史学科卒業後2002年同大学院文学研究科博士課程修了し2003年の『武士の家計簿「加賀藩御算用者」の幕末維新』で第2回新潮ドキュメント賞、2010年には森田芳光監督・仲間由紀恵・堺雅人主演で映画化された。2010年「歴史を視聴者にわかりやすく解説した」として第15回NHK地域放送文化賞を受賞。読売新聞読書委員など

を務める。代表的な著書に『殿様の通信簿』（朝日新聞社、2006年、のち新潮文庫）、『龍馬史』（文藝春秋、2010年）などがある。東京歯科大学の祖高山紀斎に漢学倫理を教育した紀斎の伯父・磯田郡次兵衛由道の直系子孫にあたられる。

今回のセミナーでは、「幕末維新の人材育成－薩摩、会津、高山紀斎－」と題した講演を伺った。

東京歯科大学の前身を設立したのは「高山紀斎」。幕末維新期の岡山藩とその支藩のなかで教育された。江戸時代は、藩によって教育が異なり、会津藩、佐賀藩、長州藩、薩摩藩などは、それぞれ個性ある教育をしていた。あえて二つのタイプをあげるなら、会津型と、その対極にある薩摩型の教育があげられる。会津藩は日新館という藩校を持ち、藩祖・保科正之が編んだ『二程治教録』を聖典として、朱子学の「治教」をはじめた。教育が統治であり、統治が教育である。放っておけば、動物同然になる下々を教え導くことが、政治の最高目標と考える思想であった。会津藩では藩が決めた「形」を受け入れ、達成できた者から登用し出世させるシステムにした。「ならぬものはならぬ」としたため、形式美はあるが思考の柔軟性に欠ける藩風ともいわれる。佐賀藩も会津同様に藩校で秀才教育をはじめた。朱子学的模範解答ができる者が優遇され、課業を達成できぬ者は80%も家禄が没収される厳しい制度であった。一方、薩摩藩では、藩士は全土の農村に散住し、藩校に通う者は一部であった。薩摩藩は藩士を藩校の学寮に押し込めず、野に放ち、一見粗野で野蛮な郷中教育を行った。しかしこの型にはまらない実践教育が「想定外」をなくし、明治維新から日露戦争にかけて活躍する薩摩の人材を生み出していった。詮議と呼ばれる問答は「館の横の馬場を通行していて、石垣の上から、つばを吐きかけられたら、どうするか」と先輩が後輩に質問する。この間に「直ちに門から入り、つばを吐いた人間をとっちめると答えた者は不心得とされる。考え直して、「自分は人から嘲笑を受ける理由がないから平然として通るようにします」と答え直すと「それは心掛けがよろしい」と先輩は褒めてくれるが、こう付け足す。「石垣のすぐそばを通るから無礼にあう。道の真ん中を歩くようにしろ」。その知恵をもって油断なく日常の一挙手一投足を考えよ、と教える。

さて、高山紀斎先生は幕府軍に属し鳥羽伏見の戦いにおいて英国軍との戦闘に遭遇し、そこで英国のすさまじい国力に圧倒されるという経験をされる。これが後に米国への留学につながったと考えられる。そして、おそらくは岡山藩は高山紀斎を財政的に支援し留学させたのであろう。

当日は、大学院生のみならず、金子 譲理事長、井出吉信学長をはじめとした多くの聴講者があり、活発なセミナーとなった。



講演される磯田准教授：平成23年11月10日（木）、千葉校舎第2教室

■推薦入学選考、帰国子女・留学生特別選抜、編入学試験A、学士等特別選抜A試験実施

平成24年度推薦入学選考、帰国子女・留学生特別選抜が平成23年11月12日（土）午前9時より、水道橋校舎、大阪の天満研修センター、福岡のTKP天神シティセンターの3会場において実施された。推薦入学選考（指定校制含む）では94名、帰国子女・留学生特別選抜では2名の志願者が集まり、午前中に小論文、小テスト、午後には面接試験が行われた。また、今回、従来の学士編入学試験から再編・新設された、編入学試験A、学士等特別選抜Aも同時刻に水道橋校舎で実施され、16名の志願者があり、小論文・小テストおよび面接試験が行われた。編入学試験Aの合格者は、来年度の第2学年に編入、学士等特別選抜Aは第1学年に入学する。なお、合格者には11月15日（火）に合格通知が発送された。

平成24年度一般入学試験（I期）・大学入試センター利用試験（I期）は、平成24年2月2日（木）に水道橋校舎および大阪（天満研修センター）、福岡（TKP天神シティセンター）の3会場において実施される。

■第336回大学院セミナー開催

平成23年11月17日(木)午後5時40分より、千葉校舎第2教室において、第336回大学院セミナーが開催された。今回は、大学院生に広く社会を見る目を養ってもらうため、歯科界以外の演者を招く企画で、株式会社フジタ建設本部検査部長 塚本正己氏を講師にお迎えした。「東日本大震災における建築物の被害報告」と題した私たちには馴染みの少ない建築学分野の講演を伺った。

内容は①今回の地震被害はどのようなものだったのか？②建築の耐震基準は不十分だったのか？③この災害を踏まえたうえで、これからの建築技術にどう生かしたら良いのか？という疑問に対しての解説的な講演であった。1978年の宮城県沖地震を教訓として1981年に耐震基準が改定されたが、この耐震基準で建設された建物については、構造部材に軽微な被害は見られたものの構造躯体の被害は少なく、現行の耐震基準はおおむね妥当であるとされているとのことであった。しかし、雑壁の破壊や天井の落下、空調・照明などの設備機器の損傷などにより建物の機能が損なわれたことより、非構造部材についての耐震基準の整備が必要となるとともに基準にあった施工と適切な品質管理が重要であるとのことであった。今後30年間にマグニチュード7程度の地震が70%前後と高い確率で南関東に発生するといわれている。私たちもある程度知っておかなければならない建築学分野の有意義な講演であった。



講演される塚本氏：平成23年11月17日(木)、千葉校舎第2教室

■がんプロフェッショナル養成プラン 東京歯科大学インテンシブコース「がん医療現場での口腔ケアセミナー」開催

平成23年11月18日(金)市川総合病院において、

看護師、歯科衛生士を対象にした「がん医療現場での口腔ケアセミナー」が開催された。これは東京歯科大学が参画しているがんプロフェッショナル養成プラン「南関東圏における」機関が主催するインテンシブコースの一貫で、年に1度行われるイベントである。今年は関東圏の病院から19名の看護師および歯科衛生士が本セミナーを受講した。このセミナーの目的は、講義と相互実習を行い、がん患者の口腔ケアを実践するための具体的な方法を伝授し、集中的にトレーニングすることにより口腔ケアのスキルアップを図ることである。内容としては、本学大学院研究科長 井上 孝教授、市川総合病院 瀧野孝子看護部長の挨拶に始まり、がんプロフェッショナル養成プランコーディネーター 野村武史講師の司会のもと、口腔がんセンター長 片倉 朗教授による「医療における口腔ケアの重要性」、外科学講座 佐藤道夫准教授による「術後合併症と口腔ケア」、オーラルメディスン・口腔外科学講座 渡邊 裕講師による「急性期・周術期における口腔ケアの必要性」、市川総合病院歯科・口腔外科 大屋朋子



受講生にセミナーの概要を説明する井上大学院研究科長：平成23年11月18日(金)、市川総合病院講堂



挿管中の患者の口腔ケアのポイントについて解説する大屋歯科衛生士(中央)：平成23年11月18日(金)、市川総合病院講堂

歯科衛生士による「病棟看護における口腔ケアの実際」、口腔がんセンター 清住沙代歯科衛生士による「がん医療での口腔ケアの実際（口腔粘膜炎・口腔乾燥症等への対応）」についての講義が行われた。また市川総合病院歯科衛生士スタッフによる指導のもと、口腔ケアに関する相互実習が行われ、市川総合病院 藤平弘子歯科衛生士長による挨拶でセミナーを終えた。最後にアンケートを記入していただき、皆大変充実した実りあるセミナーであった、明日への診療に生かすことができるなどという感想が書かれ、大変好評のうちに終了した。

■平成23年度修学指導関係者・父兄個別面談会開催

平成23年11月19日（土）に修学指導関係者・父兄会個別面談会が千葉校舎で開催された。第1学年から第6学年の修学指導を必要とする学生を対象とし、保護者及び学生と学年主任（クラス主任）・副主任による3者面談方式で実施された。

■千葉校舎防災訓練実施

平成23年11月21日（月）午後1時30分より、千葉校舎において、防災訓練として夜間防災訓練、火元責任者の通報訓練、防災無線の通信訓練の3つの訓練が実施された。

始めに行われた夜間防災訓練は、あらかじめ選出された宿直者（口腔外科歯科医師、看護師）及び病院勤務者等約20名が参加し、夜間に火災が発生したことを想定して行われた。「火事だ」の掛け声が病棟内に響き、緊張感のある訓練となった。

続いて、火元責任者の通報訓練では、各教室幹事等の学内における火元責任者約70名が参加し、「地震が発生しました。」という訓練放送後、各自、担当地域を点検、被害状況を防災センターへ報告する訓練を行った。当訓練は毎回の消防訓練時に実施しており、火元責任者の自覚と当該意識の向上を目的としたものであるが、各自の役割が改めて確認できる機会となった。

最後に、管理棟玄関（防災センター（総合管理室）前）において、防災無線の模擬通信訓練を実施した。施設課技術員、守衛、設備担当者の6名が、実際に防災無線機を使用して美浜区役所地域振興

課（美浜区災害対策本部）と交信し、仮想被災状況の報告等を行った。津波警報の発令等を想定した交信等が行われ、有事の際に防災無線をどう利用するか参加者の意識が高まる大変有意義な訓練となった。



夜間防災訓練に取り組む参加者：平成23年11月21日（月）、千葉校舎管理棟1階

■第107回歯科医学教育セミナー開催

平成23年11月21日（月）午後6時より、千葉校舎第2教室において、第107回歯科医学教育セミナーが開催された。今回は、「緊急報告：第118期生後期臨床実習に追加した新たな方略とその実施状況」と題し、10月に実施された「臨床実習中の効果的なカリキュラム作成・実施の為のワークショップ」において、議論し、取り決められた事項について、臨床教育委員長の矢島安朝教授と各科臨床実習担当者より、実施経過報告が行われた。

はじめに、矢島教授より臨床実習の見直しに至るまでの背景、経緯そして概要が説明された。

次に、各科の担当教員により、修正、改編された新たなカリキュラムの下に行われている取組みについて説明がなされた。関連のある基礎系科目



説明する矢島教授：平成23年11月21日（月）、千葉校舎第2教室

との連携講義の実施や、理解度を高める授業手法を実施し、学生からは学習効果が高いと概ね好評とのことであった。

水道橋移転に伴う授業形態の変化に対する短期的な対応として導入されて間もない中で、学生の反応もよく、今後継続、検討・工夫していくことで、さらに効果的で充実した臨床実習となることが期待できる報告であった。

■第337回大学院セミナー開催

平成23年11月24日(木)午後5時40分より、千葉校舎第2教室において、第337回大学院セミナーが開催された。今回は東京医科歯科大学生体材料工学研究所金属材料分野 塙 隆夫教授をお迎えして「高分子複合化による金属の生体機能化」と題した講演を伺った。

金属材料は典型的な人工材料であり生体機能がないにもかかわらず、優れた強度と靱性から多くの医療用デバイスに使用され、体内埋入型デバイス(インプラント)の約80%以上を占めている。歯冠修復物、義歯床、矯正用ワイヤー、歯科インプラントなどのデバイスとして金属材料は必須であり、これらの医療用デバイスでは、力学的信頼性の点から金属を他の材料で代用することはできない。しかし金属は人工材料であるが故に、生体適合性、生体機能性の面での課題が多い。塙教授の研究室では、金属表面に高分子材料を固定化することによってこれらの課題を克服すべく研究が行われている。

そこでチタンにポリエチレングリコール(PEG)を電着することによって抗血栓形成能あるいはバイオフィルム形成防止機能を付与したデバイスの開発、分子鎖長の異なるPEGを介してRGDペプ



講演される塙教授：平成23年11月24日(木)、千葉校舎第2教室

チドを固定化したチタンの軟組織適合性の差異、電着PEGを介したRGD固定化チタンの骨形成促進評価、などについて紹介いただいた。

合金開発や表面処理・改質によって良好な生体適合性や生体機能性が付与できれば、その利用範囲は大きく広がるものと期待される。研究と臨床のいずれにも有意義と思われるセミナーであった。

■平成23年度第5回水道橋病院教職員研修会開催

平成23年11月28日(月)午後5時30分より、水道橋病院3階待合ホールおよび総合歯科第1診療室において、平成23年度第5回水道橋病院教職員研修会が開催された。今回は、感染予防指導チーム委員会の主催により、院内感染予防対策としての手洗い実習を行った。対象者は院内で勤務する全教職員とし、2グループに分かれて実習した。

はじめに委員の田口達夫講師(口腔インプラント科)が、手洗いの必要性や正しい手洗い方法、ならびにPPEのグローブの着脱方法等について、委員会の作成によるスライドおよびビデオ映写による説明を行った。

続いて実際に各自で手洗いを行ってもらい、洗い残しの確認を行った。特殊蛍光ローションを手指に塗布し、20秒間ハンドソープで手洗い後水洗いを実施し、各自両手のひら・甲の洗い残し部位を蛍光ライトで確認した。

手洗い実習に毎年参加している教職員は、昨年と同じく爪の周りの洗い残し部位を再確認していた。また、初めて参加した教職員からは、手荒れの部位の洗い残しに驚きの声があがり、手のケアの大切さなどをお互いにチェックし合う声が聞かれた。



説明する田口講師：平成23年11月28日(月)、水道橋病院3階待合ホール

現場で働く全ての教職員が、基本的な手指衛生対策を理解し実践することで、初めて医療関連感染の低減効果が得られる。水道橋病院でも、毎年実習を繰り返すことにより、感染予防対策として正しい手洗いが必要であるという認識を深めてきた。今後も継続的に実習を行い、結果をフィードバックしていくことで、研修効果が上がることを期待したい。



洗い残しの確認：平成23年11月28日（月）、水道橋病院3階待合ホール

訃報 田熊庄三郎名誉教授ご逝去



本学名誉教授田熊庄三郎先生は平成23年11月20日午後2時、呼吸不全のためご逝去された。享年86歳。お通夜、告別式は田熊家の菩提寺である護国寺にて厳粛かつしめやかに執り行われ、金子 譲理事長、井出吉信

学長をはじめとする多くの方が最後のお別れをされた。

田熊先生は、昭和22年3月東京歯科医学専門学校を卒業後直ちに研究科に入学し、翌23年3月にこれを修了、同年4月から病理学教室に助手として奉職された。先生は研究に電子顕微鏡を導入され、昭和24年10月レプリカシャドウイング法を応用して、象牙質管周基質を発見された。この研究論文は日立製作所の中央研究所研究報告第573号に掲載され、それが同研究所に今でも大切に保存されているが、東京歯科大学病理学教室紫紅会発行の「Formation, Structure, and Diseases of Teeth, Vol. III」にも復刻版が収録されている。惜しむらくはこの論文が日本語であったため世界に周知されず、現在ではこの構造物が管周象牙質として認知されてしまったのが残念である。

昭和26年、「人類歯牙組織の電子顕微鏡的研究」が東京歯科大学創立60周年記念論文賞を受賞した。昭和32年から同34年までは米国国立歯科衛生研究所(NIH,USA)においてResearch Associateとして研究に従事され、昭和38年から5年間U.S. NIH Grantを受けている。その後も電子顕微鏡を駆使して象牙質や骨などの硬組織の形成と石灰化に関する研究を続行され、昭和47年に歯科基礎学では最高の栄誉とされているIADR Award for Basic Research in Mineralizationを受賞された。アジアで初の受賞者の誕生であった。

病理学講座は、その開祖である花澤 鼎先生以来、齲蝕に関する研究を行っているが、田熊先生も象牙質齲蝕病巣の電子顕微鏡の研究を行ってきた。今では「再石灰化」という言葉が国民周知の用語となっているが、田熊先生の研究がその先駆けであることは間違いのないところである。「電子顕微鏡を覗いているときに至福の時である。」とおっしゃっておられたが、研究者としてこれは最高の言葉であろう。

学内においては、教務部長、大学院研究科長、法人評議員などを、また文部省歯学視学委員などの公的職務も歴任され、平成2年定年退職された。

退職後、「これからは趣味であった短歌の世界で生きてゆく。俳句という言葉は今では世界に通用するが、短歌はまだまだである。私はこれを世界的にしたい。」と言われ、以後、歌人 多久麻（おおのきゅうま）として活躍されて、「象牙と瑠璃」、「そして白亜」などCDを含む多くの歌集を出版された。告別式に歌界からの生花も供えられていた。研究者として、そして教育者として歯科界に、また歌人としても歌界に多大な貢献をされた田熊庄三郎先生に改めて敬意を表しますと共に、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

(柳澤孝彰)



多久麻 歌集

トピックス

■平成23年度沖縄歯科巡回診療報告

沖縄県のへき地及び無歯科医地区住民の歯科医療の確保と歯科衛生思想の啓発を図ることを目的とし、平成23年度第3回歯科巡回診療（東京歯科大学担当）が沖縄県波照間島で実施された。実施期間は平成23年9月26日（月）から10月28日（金）までの33日間であった。

今回派遣された波照間島は人口547人、世帯数264の離島であり、波照間保健センターにおいて歯科診療を行った。

診療班の構成は千葉病院から派遣された歯科医師2名（手銭親良助教：歯科保存学講座、腰原輝純助教：クラウンブリッジ補綴学講座）、歯科衛生士2名（金澤香織、中村瑛梨佳）に加え、沖縄県から派遣された歯科技工士1名の計5名であった。なお、腰原助教は、上記期間内に作製あるいは修理した義歯等の再調整を行うため、再度、波照間島に赴き、平成23年11月8日（火）から11月11日（金）までの4日間の再診療を行った。

患者数は新患が135名、のべ436人が来院した。診療内容は修復処置が132例、歯周療法処置は歯石除去223例、口腔外科処置として20例、補綴処置として54例を行った。また現地の小中学校、乳幼児の母親、成人を対象に口腔衛生指導を行った。

診療実日数は21日程度であったため、初日に検診を行い抜歯後すぐに義歯の印象採得を行い、最終週に義歯を装着するという慌ただしさであった。へき地診療ということで島民の方々の口腔内状況はいかがなものかと心配していたが、良好な方が多く、著しく咬合の崩壊しているケースは少

なかった。

しかし次回の巡回診療は1年後であり、島民の方々の不便さは計り知れないと思われた。

今回の歯科巡回診療が無事に終了できたことにあたり、厚生労働省、沖縄県福祉保険部、また波照間島の関係者各位、ご協力いただいた村民の方々のご尽力に深く感謝の意を表します。

（腰原輝純）



診療を行う手銭助教（手前）と金澤歯科衛生士：平成23年10月25日（火）、波照間保健センター



巡回診療を行った波照間保健センター：平成23年9月29日（木）

■田中らいらさん（5年）、高橋史子さん（3年）

歯科基礎医学会学部学生部門にてポスター賞を受賞

平成23年9月30日（金）から10月2日（日）、第53回歯科基礎医学会学術大会が岐阜県の長良川国際会議場で開催され、学部学生部門にて、田中らいらさん（5年）、高橋史子さん（3年）がポスター賞を受賞した。以下、参加報告。

私は第4学年4月から生理学講座でユージノールの生理作用について研究をしており、本学会の学生部門でポスター発表をさせていただきました。



診療を行う腰原助教（手前）と中村歯科衛生士：平成23年10月25日（火）、波照間保健センター

学外での発表は自分にとって初めての経験でした。研究を行っていくうえで、研究室の先生方とディスカッションを重ねることは自分の研究への理解を深めることとなります。しかし、学外や歯科以外の先生方と交流することを通して、全く新しい知識や考え方に触れることができ、とても貴重な経験となりました。また、本学会への参加を通して、たくさんの先生方から研究や今後の進路に対するアドバイスや励ましを頂きました。東京歯科大学では研究を行っている学生は少数派で、友人と研究について話すことは無く、研究室以外の人と研究について話をすることもほとんどありません。そんな中、多くの先生方が自分の研究に興味を持って質問や助言をしてくださったことは、自分にとって大きな励みとなりました。

また、反省点もあります。自分の研究テーマへの理解と知識が不足していたこと、自分の意見を伝えるトレーニングが不足していたことです。学会は、普段お話し出来ない先生方と会える、とても貴重な場でした。しかし、自分は“学会に参加する”ことだけで精一杯で、せっかくの機会を生かすきれなかったと思います。

今回、私は学部学生として学会に参加させていただき、とても貴重な経験をさせていただきました。今回の発表や一連の研究を通して得られた経験を、今後の歯科医師としての人生に生かしていきたいと思っています。最後になりましたが、このような機会と御指導を頂いた生理学講座田崎雅和教授、澁川義幸先生、そして日頃よりご指導頂いている先生方、この場を借りてお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

(田中らいら)

本学会では卒業論文の研究内容を発表しました。発表では各県の大学から多くの先生が来られておりとても緊張しましたが、説明をするのに必死で、時間が過ぎるのがとても速く感じられました。

また、昨年東京歯科大学学会での口頭発表とは違う今回のポスター発表の面白さは、自分の発表に対し一人一人の先生がレスポンスをいただけたということでした。特に、自分が行っている研究と同じ分野を研究されている学外の先生方からは色々なご意見を頂き、とても楽しい経験をさ

せていただきました。同時に、興味をもって頂いた先生方に研究内容を分かりやすく説明することには難しさも感じましたが、こうすればもっと分かってもらえるのではないかと工夫をしていくうちに、自分の頭の中でも整理ができ、より理解が深まり自信に繋がりました。

今回の学会参加を通して、今まで様々な視点から疑問を持たずに研究をしていたことに気づき、もっと広い視野を持ち取り組めばよりよい研究に繋がると思い、今後の課題にしていきたいと思えます。また、普段訪れない土地に行き、その土地の歴史に触れあい、郷土料理を食べるのもまた一つの楽しみだと思いました。

最後に、今回このような貴重な機会とご指導を下さった生理学講座 田崎雅和先生、澁川義幸先生、日頃よりご指導して頂いている先生方に心よりお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

(高橋史子)



受賞した田中さん(右)、高橋さん(左)：平成23年10月1日(土)、岐阜・長良川国際会議場

■加藤英治専攻生 Table Top presentation awardを受賞

平成23年10月6日(木)から9日(日)に韓国the COEX InterContinentalにてInternational Congress of Oral Implantologists (ICOI) XXVII World Congressが開催され、有床義歯補綴学講座の加藤英治専攻生がTable Top presentation awardを受賞した。表彰式は同学術大会表彰式にて施行された。

受賞演題は「b-FGF/TCP-collagen enhances new bone formation」であった。本研究は、コラーゲンスポンジ中にベータ型リン酸三カルシウム顆粒(β -TCP)を含有させ、優れた担体特性と

機械的強度の高さを兼ね備えたコラーゲン複合体に塩基性線維芽細胞増殖因子(b-FGF)を含浸させて骨形成を促進する生体材料の開発を試みた。ヒト抜歯窩を想定して、ラット頭蓋骨クリティカルサイズディフェクトモデルを用いた。この材料は抜歯後のソケットプリザベーションや上顎洞底挙上術、垂直的骨造成術への応用が期待される。その新規生体材料としての有効性や臨床有用性を評価され、受賞に至った。



櫻井 薫教授（左）と受賞した加藤専攻生（右）：平成23年10月28日（金）

■間宮秀樹講師 デンツプライ賞を受賞

平成23年10月7日（金）から9日（日）に開催された第39回日本歯科麻酔学会総会・学術集会（神戸国際会議場・兵庫県）において、歯科麻酔学講座の間宮秀樹講師がデンツプライ賞を受賞した。本賞は日本歯科麻酔学会第38回学術集会で発表された演題の中で、学術上の優秀な業績であると認められ、今後のさらなる研究発展が期待される演題に対して贈られる賞であり、学術委員会によって選考される。

受賞演題は「術前不安によるプロポフォル必要量増加に対するフェンタニルの効果」（共同演者：征矢 学、久木留宏和、黒田英孝、大川恵子、一戸達也、金子 譲）で、手術患者の有する不安感が全身麻酔導入時に使用される静脈麻酔薬プロポフォルの必要量を増加させる現象に対して、麻薬性鎮痛薬フェンタニルクエン酸塩が有効であるかどうかを検討した研究である。プロポフォル使用量の増加は循環抑制などの副作用発現の可能性が高くなるため、避けることが望ましい。本研究の結果、フェンタニルクエン酸塩の併用により患者の術前不安の大きさに関わらず、プロポフォル必要量が増加しないことが示された。

今回の研究は不安の大きな患者に対する安全な全身麻酔導入方法の開発に役立つものであり、今後の研究の発展が臨床麻酔の安全性向上に寄与することが期待される。



金子 譲理事長（左）と受賞した間宮講師（右）：平成23年10月8日（土）、神戸ポートピアホテル

■縣 秀栄講師 平成23年日本歯科麻酔学会中久喜学術賞を受賞

市川総合病院麻酔科 縣 秀栄講師が平成23年日本歯科麻酔学会中久喜学術賞を受賞し、平成23年10月7日（金）から9日（日）に開催された第39回日本歯科麻酔学会総会・学術集会にて表彰された。中久喜学術賞は当大学の初代歯科麻酔学講座教授である中久喜 喬名誉教授の業績にちなんで設けられたものであり、日本歯科麻酔学会雑誌に掲載された原著または臨床論文から、最優秀論文を毎年1編選考して授与されている。受賞論文は「顎変形症術後痛覚過敏に及ぼす術中レミフェンタニル濃度の影響.日歯麻誌2010;38(1):13-20」で、著者は縣 秀栄、湯村潤子、三木 学、小坂橋俊哉の4名であった。超短時間作用型オピオイドであるレミフェンタニルを使用する上での問題の一つに術後痛対策がある。レミフェンタニルの代謝が



中久喜名誉教授（中）、小坂橋教授（右）、受賞した縣講師（左）

速いことが原因とされているが、それだけでは説明がつかない異常な術後痛が発現する症例を経験することがあり、その原因の一つが麻薬の退薬症状である痛覚過敏ではないかと考えられている。術後の鎮痛薬の必要量で痛覚過敏を推測した結果、顎変形症手術において術中のレミフェンタニル投与量が多い方が術後の鎮痛薬の使用量が多く、痛覚過敏の発生が疑われた。現在、この報告を基に様々な痛覚過敏対策が考えられ、研究が継続されており、今後の発展が期待される。



金子 謙理事長（右）、小坂橋教授（左）、縣講師（中）
：平成23年10月8日（土）、神戸ポートピアホテル

■恩田健志助教 優秀ポスター発表賞（ゴールドリボン賞）を受賞

平成23年10月21日（金）から23日（日）の期間に大阪国際会議場で行われた第56回社団法人日本口腔外科学会総会・学術大会で、口腔外科学講座の恩田健志助教が優秀ポスター発表賞（ゴールドリボン賞）を受賞した。「口腔扁平上皮癌の分泌タンパク質解析」と題し、プロテオミクス解析技術を駆使して、口腔扁平上皮癌細胞が発現異常を示す分泌タンパク質を同定し、低侵襲かつ反復して採取可能な唾液、血液、尿等の簡便に採取可能な試料中の標的タンパク質量を測定することにより唾液・血液・尿を試料とした口腔扁平上皮癌の診断用分子マーカーとして応用できる可能性について報告した。多くの参加者の興味を集め、多義にわたる質問が行われた。現在、口腔扁平上皮癌の確定診断には生検による病理組織診断が行われているが、癌細胞を播種させる危険性や疼痛、出血等の侵襲を避けることはできない。今後、症例数を増やしてリストアップされた口腔扁平上皮癌細胞が異常分泌を示す分泌タンパク質群の分泌量を測定することにより低侵襲かつ簡便な口腔扁平上

皮癌の新規診断方法の開発を目指す。



受賞した恩田助教：平成23年10月23日（日）、大阪国際会議場

■浅井康宏名誉教授 平成23年秋の叙勲において瑞宝中綬章を受章される

本学元副学長浅井康宏名誉教授が、平成23年秋の叙勲で瑞宝中綬章を受章された。

浅井名誉教授は、昭和33年より歯科保存学教室に勤務し、同46年に教授に就任され、平成13年に定年退職となるまで、43年の永きにわたり大学の発展に寄与された。その間、歯科衛生士専門学校長、副学長等を歴任され、学外では、厚生省歯科医師国家試験委員会委員、厚生省中央薬事審議会委員、文部省学術審議会専門委員、文部省歯学視学委員会委員、日本歯科保存学会会長、日本歯科薬物療法学会会長、全国歯科衛生士教育協議会会長等々を歴任された。

長年にわたるこれらの功績が評価され、今回の受章となった。

■平成23年度医学教育等関係業務功労者表彰（文部科学省）を受ける

市川総合病院 千葉泰子 主任薬剤師

市川総合病院 小林京子 主任臨床検査技師

歯学部・医学部及び附属病院等において、教育・研究・患者診療等に長期間従事し、顕著な功労があった者に授与される当該表彰において、本学から推薦された市川総合病院の千葉泰子主任薬剤師並びに小林京子主任臨床検査技師が、全国の大学より推薦された候補者の中から、今年度の受賞者として選ばれた。

千葉氏は、昭和51年から約35年にわたり薬剤師業務に携わり、その仕事ぶりは常に他の職員の模範となっている。業務の遂行能力が高く、周囲

を見渡しながらか冷静に事に当たっていく姿は、上司・同僚・後輩薬剤師達にも信頼され、業務多忙



表彰を受けた千葉主任薬剤師：平成23年11月30日（水）



表彰を受けた小林主任臨床検査技師：平成23年11月30日（水）

な状況においても苦言も呈さず努力をし、主任薬剤師としての職責を全うしている。

小林氏は、昭和53年から約33年にわたり臨床検査技師業務に携わり、誠実、勤勉にて責任感も強く、常に自分に厳しく前向きに努力し、敬遠されがちな仕事や夜勤にも率先して取り組む姿は、他の職員からの信頼を集め高く評価されている。

それぞれの立場において、他の職員の模範となり、病院の発展に貢献してきたことが高く評価され、今回の表彰となったものである。

■東日本大震災復興支援義援金の報告

本学では、東日本大震災による被災地の皆様の救援と復興を願い、義援金として募金箱を設置して募金活動を実施している。震災発生から8月末まで、各施設の募金箱においてお預かりした義援金は、千葉校舎168,517円、水道橋校舎100,556円、市川総合病院271,971円で3施設合計541,044円となった。これらの善意あふれる義援金は、日本赤十字社ならびに読売光と愛の事業団へと送られ、被災地の方々の支援に役立てられている。（東日本大震災（東北地方太平洋沖地震）に対する東京歯科大学としての支援(9)、広報第247号29頁参照）

長期海外出張者報告

■歯周病学講座 講師 衣松高志

平成21年10月1日より平成23年9月30日までの2年間、トーマス・ジェファソン大学整形外科学講座基礎研究部門およびフィラデルフィア小児病院外科学講座整形外科分野へ長期出張させていただきました。本稿ではその概要についてご報告させていただきます。

フィラデルフィアはアメリカ東海岸に位置し、17世紀後半ウィリアム・ペンにより開かれた全米で最も古い都市の1つとして知られており、独立戦争時にはこの地の州議事堂において独立宣言の起草が行われ、1776年7月4日にはイギリスからの米国独立宣言がなされたことからアメリカの人々にとって特別な土地となっています。また、北に約2時間移動すればニューヨーク、南西に2時間半移動すればワシントンDCと両都市へのアクセスが良く、現在人口150万人の全米第5位の都市でもあります。たびたび映画の舞台となるこ

とも知られ、映画“ロッキー”を例にとると彼の出身地であるイタリア系移民の多いイタリアンマーケット、ランニングしながら長い階段を登り頂上で恋人の名前を叫んだフィラデルフィア美術館等、映画ファンにとっては馴染み深い風景が数多く存在しています。



フィラデルフィア子供病院外科学講座にて共同研究者と共に。Pacifci教授（前列左から2人目）、衣松講師（前列右から2人目）、小山准教授（後列右から3人目）。

私が所属した教室は主任教授のMaurizio Pacifici先生以下、准教授3名、ポスドク（博士号を取得した若手研究者）10名に研究助手3名と、研究を専門とする講座としては大所帯でした。同講座は研究テーマとして顎骨および四肢の形態形成に関わる遺伝子機能の解明、進行性骨化性線維異形成症や遺伝性多発性外骨腫症等の骨系統疾患の原因解明および治療を主軸において活動しております。これらのテーマを3人の准教授およびその下に付くポスドクが分担して行う形態で運営されており、私は准教授の小山英樹先生の下、下顎頭発生におけるプライマリーシリアの働きを研究すると共に、四肢発生において形態形成遺伝子の一つ“HOX”がどのようにその動物特有の四肢形態を決定していくかを研究しておりました。プライマリーシリアとは哺乳類の体を構成するほとんどすべての細胞が持つ繊毛用構造であり、イメージとしてはゲゲゲの鬼太郎の妖怪アンテナを想像していただくと良いのですが、細胞から1本ピョコンと飛び出たヒゲのような構造で、胎生期の体の左右側決定に必須であると共に骨形成シグナルの伝達にも重要な関わりを持つことが知られております。アメリカ滞在の2年間で、この構造を軟骨領域で欠いた選択的ノックアウトマウスを解析することにより、同構造が下顎頭の幅および表面構造のメンテナンスに重要であることを証明することが出来ました。この研究に関する論文は今年の8月Journal of Dental Researchに掲載され、幸運にも研究内で発表した組織写真はその号の表紙として用いられました。残念ながらHOX研究に関しては論文になるような十分なデータを残すことはできませんでしたが、顎骨形成時においてその遺伝子の一種であるHOX1の関連が知られていることから、アメリカで行ってきた研究を歯科分野に応用し今後データを作っていきたいと考えております。

オフィシャルな場面では歯科分野の臨床に触れる機会を得ることはできませんでしたが、アメリカで生活していく中でペンシルベニア大学の歯周病コースで講師をされている方と知り合う機会に恵まれ、何度かその臨床を見学させていただくことが出来ました。同歯周病コースには歯学部卒業後、専門医となるために集った若き歯科医がおり、その意識の高さ、個人個人の持つ知識の豊富さには眼を見張るものがありました。講師陣も生徒によって採点され査定されていくため意識が高く、豊富なエビデンスに関わる知識、確かな技術を持っており双方が高めあう非常に良好な環境がそこにはありました。これは現在微力ながらも講座運営にかかわらせて頂く中で自分の密かな目標としているところでもあります。また、本校の若き力がこのような海外の空気を自ら感じその活力を大学へ吹き込んでいくことは非常に重要であると強く感じました。

最後に、このような貴重な出張の機会を与えていただきました金子 譲理事長、井出吉信学長をはじめ、山田 了前教授、齋藤 淳教授に厚く御礼申し上げます。また、出張中すべての面で力添えを頂きました歯周病学講座の皆様に重ねて御礼申し上げます。ありがとうございました。



奥の最新iMacおよび手前のベンチー列は全て自分のプライベートスペース。夢のような環境であった。

学生会ニュース

■APDSA（アジア太平洋歯科学学生大会）タイ大会参加報告書

APDSA日本委員会 委員長 本田健太郎（4年）

平成23年8月15日（月）から19日（金）に、タイのバンコクでAPDSA（Asia Pacific Dental Stu-

dents Association：アジア太平洋歯科学学生大会）の本大会が実施された。この大会は、総勢400名程のアジア・オセアニア地域の歯科学学生が10名程のグループに分かれてセミナーや学術発表会、市内観光、Culture Nightと呼ばれる各国の伝統

芸能の披露会などを通して、知識・文化の交流を図るものである。

今回わが東京歯科大学国際医療研究会からは、本田健太郎(4年)、宗像花楠子(4年)井上高暢(3年)、岩崎敬大(3年)、高崎史義(3年)、河角久美子(2年)、小池将人(1年)、戸村拓真(1年)、中島 綾(1年)の計9名が参加した。

大会はバンコク市内の中心部からやや北寄りに位置する Rama Gardens Hotel で行われた。

初日は登録を行い、夕食の際に初めてグループのメンバーと顔を合わせた。普段なかなか使わない英語を使い、なんとか自己紹介をすることができた。夕食後、日本委員会の役員と打ち合わせをしてから就寝した。

2日目の午前中は各国から参加した教授による講義が開催された。講義は全て英語で行われ、臨床・基礎・医院経営に関することなど様々な分野の講義があった。全てを聞きとることは出来なかったが、スライドショーで分かりやすく丁寧に説明してくださったことや、1年生の時から継続して行われる英語の授業で習った単語が出てきたことがあったので理解することができた。中でも印象に残ったのは“Medical emergency in dental office”で、患者さんが治療中に倒れた場合のBLS等の救命処置や、法的な手続きはどのようにしたらよいか具体的に説明された。4学年の歯科麻酔学で習った内容が講義されたので、英語でも理

解できたという嬉しさがあった。

講義の後はグループで市内観光をした。バンコク近郊にある寺院を回りながら、タイの歴史や変遷についてタイ人のグループリーダーから英語で説明を受けた。説明を聞きながら感心したのは、彼らは英語が母国語でないにもかかわらず流暢に話し、他の国のメンバーと難なく会話をしていることだ。タイ大会にはオーストラリア、タイ、マレーシア、日本、韓国、香港、台湾、フィジー、フィリピン、インドネシアの国からメンバーが参加していたが、彼らは訛りがあったものの大概の会話はこなせる程度の英語力を身に付けていた。

市内観光をした後は別名“バンコクの大動脈”と呼ばれる Chao Phraya 川をディナークルーズした。船内でディナーをしながら、各国のメンバーと学生生活について語ったり、冗談を言い合ったりして過ごしている中、きらびやかなショーが行われた。タイの女性は綺麗だなと思っていたら、彼女たちは全てニューハーフだったそうで、驚きを隠せなかった。ダンスは情熱的で船内は大盛況であった。ホテルに戻ってから、最後の夜に開催される Cultural Night と呼ばれる伝統芸能の披露会に向けて、日本の参加者は一丸となって劇やダンスの練習をした。

3日目、午前中に国連職員による U21 UNMDG Workshop が行われた。2015年までに到達することを目標に Millennium Development Goals



寝食を共にした各国の学生と再会を祈念して記念撮影
：平成23年8月18日(木)、バンコク・Rama Gardens Hotel

(MDG)と呼ばれる8つの課題(貧困の解決、教育の普及、男女平等、子供の妊娠の防止、妊婦の衛生環境の向上、HIVなどの感染症の撲滅、環境維持、国際間ネットワークの強化)が挙げられている。

多くのAPDSAの学生はUNMDGに関心を示しており、今後はこの活動に積極的に関与することでAPDSAの意義がより一層高まると感じた。

午後はSRC (Scientific Research Competition)という学生による研究発表が行われた。日本からは長崎大学の学生が“A novel Asp and Glu specific dipeptidyl peptidase from Porphyromonas endodontalis”という題で発表した。最初の発表で緊張している彼女を日本人参加者全員で応援した。審査委員の厳しい質問を乗り越え最後まで堂々と発表する姿に感動した。他にマレーシアや韓国、インドネシアの学生が、基礎や臨床的な内容を発表していた。日本以外の参加国ではAPDSAの認知度が高く、SRCに出展するために企業や歯科医師会や国によるバックアップがあると聞き、羨ましく思った。

SRCの後、大概の参加者はSiam squareというバンコク有数のショッピングモールへ行ったが、私と第4学年の宗像さんと東京歯科大学OBの石井啓裕先生はホテルに残り、日本委員会の代表としてAnnual General Meeting (AGM)という代表者会議に参加した。

会議の内容は会計報告や役員交代、The Lead A Hand Project というAPDSAによるチャリティー活動(このプロジェクトは先のスマトラ島沖地震や東日本大震災、カンボジアに多額の義捐金を送っている)について等、多岐にわたり、3時間以上行われた。真剣な空気が張り詰めたかと思えば、誰かが冗談を言って会場が笑いに包まれることもあった。AGMに参加する学生は大抵その国でトップクラスの成績をとっている学生で、将来はその国を代表してもおかしくない人間であると聞き、そのような中に自分がいいものかと恐縮しながら、英語で交わされる内容についていけない自分にとっては地獄のような時間であった。海外の歯科学生が母国語以外の言語で積極的に意見を交換している様子を目の当たりにし、身をもって体験できたことは自分にとって貴重な財産であると感じた。

会議が終わってから、AGM参加者でSiamに移動して食事をした。ここでは各国の一气飲み対決が繰り広げられ、大変な盛り上がりで楽しかった。その後、他の参加者たちと合流してクラブに移動した。クラブの中は爆音が鳴り響きフラッシュが光り、皆が踊り興奮は最高潮に達した。しかし後半になると日本人以外の参加者がトイレなどで酔っぱらって倒れていたため、比較的平気であった日本の参加者などが彼らを介抱した。

4日目の午前から夕方まではOptional Tourで4カ所に分かれて観光した。

夕方になってからCultural Night が開催された。来年度開催国のオーストラリアのビデオ上映、煌びやかな衣装で伝統的なダンスを踊ったインドネシアの発表後、いよいよ日本の出番となった。水戸黄門をベースに分かりやすいような勧善懲悪のストーリーで、悪殿が姫を連れ去り、それを水戸黄門一行が救出し、めでたしめでたしとなり、皆でいきものがかりの「じょいふる」を踊って終了した。ハリセンを使って笑いをとったり、主人公役が空手経験者であったため、リアルな格闘シーンができたと思う。そして、最後に東日本大震災へ支援してくれた各国に感謝の意を表す為にビデオを上映した。当時のニュースや復興へ向けての様子を流した。上映中日本人全員がステージ上で手を繋ぎ映像を見ていたが、当時を思い出し思わず涙を流してしまった。日本の発表が終わり、盛大な拍手を受けてホッとした。最後の夜なので、5日間お世話になったグループのメンバー全員で写真を撮ったり、お土産を交換したりして過ごした。

こうして私達のAPDSAの夏は終わったが、振り返ってみると本当に貴重な数日間であったと思う。つたない英語やボディランゲージで必死に会話をしたり、写真を撮ったり、様々なことを話した。普段は「あの子可愛いね」などくだらないことを話しているマレーシアの友人と真面目に話をしているのに、歯科学生になるには激しい競争を勝ち抜かなければならず、非常に苦労してきたことを教えてくれたり、勉強に対する姿勢がとても真摯な様子が垣間見えたときには、不真面目な私は恥ずかしくなってしまった。

APDSAは400名以上のアジアの歯科学生と一度に接することができる唯一の学生団体であり、

彼らの熱意はインターネットや本などからは知ることができない。また日本国内でも毎月一回はミーティングを開いており、九州から北海道の学生と知り合うことができ、大会以外のことでも何でも相談出来たり話せる仲になれる。

この様な素晴らしい団体を学内、国内での認知をより上げていけるように努力したいと思う。



日本委員を代表してAnnual General Meeting会議に出席する本学の本田君（4年）と宗像さん（4年）（順に前列右から4番目と5番目）：平成23年8月17日（水）

■第34回東京歯科大学管弦楽団定期演奏会開催報告

管弦楽部 主将 伴野雄大（4年）

東京歯科大学管弦楽団定期演奏会は今年34回目を迎え、平成23年11月23日（水）に開催し、無

事に終了することができました。

本定期演奏会は年によって演奏のプログラムが変わり、毎年著名なバイオリニストやピアニストがゲストとして出演されることも大きな魅力の一つとなっております。今回はベートーベン「エグモント」、モーツァルト「ホルン協奏曲3番」、ドボルザーク「交響曲第3番」というプログラムで、ホルン協奏曲のソリストには新日本フィルハーモニー交響楽団の藤田麻理絵さんをお招きしました。

今年度の演奏会では、400人を超える近隣住民の方々が私たちの演奏を聴きに足を運んで下さいました。数年前までお客さんは大体200人程で、500人収容のホールの半分以上が空席という状況を少々寂しく感じていたので、ほぼ全てが埋まっている客席を前に演奏できたことはとても嬉しく思いました。

今年は部員個々の技術も高く、全体のやる気も十分だったので、非常に良い雰囲気の中で1年間部活をすることができたと思います。個人が努力を重ね、そして皆で協力し支え合い、今年の演奏会では大成功を収めることができました。部長の加藤広之先生を始め、OB、OGの方々、先輩方、そして何より部活の運営面、演奏面で我々幹部学年を支えてくれた後輩たちに感謝したいです。



大盛況の中演奏会を終え、全員で記念撮影：平成23年11月23日（水）、千葉校舎講堂

図書館から

■本学教員著書リスト

(本学の教員名が標題紙に記載されているものに限定)

Jeremy Williams、井上 孝 著 English for the dental clinic : 歯科医院で使える英語

医歯薬出版、2011

福田謙一、一戸達也、金子 譲 編 歯科におけるしびれと痛みの臨床 クインテッセンス出版、2011

○本学教員の著書については、特に収集に努めております。著書発刊のときには、図書館へ、ご一報くださいますようよろしくお願いいたします。

■「30分でわかる！文献検索講習会」を開催

平成23年11月18日(金)・12月1日(木)の両日、図書館2階グループ学習室において、「30分でわかる！文献検索講習会」を開催した。医学文献検索のためのデータベースであるPubMed、医中誌Webを使い、基礎的な文献検索の方法をパソコンで実際に操作をする実習形式で行った。電子ジャーナルや蔵書検索、文献複写申し込みなど、実際に文献を入手する方法も説明を行った。のべ14名の参加があり、アンケートでは「とても分かりやすかった」「今後役に立ちそう」などの意見が寄せられた。



文献検索講習会風景：平成23年12月1日(木)、千葉校舎図書館、グループ学習室

■東歯祭の期間中、大学史料室を一般公開

東歯祭が行われた10月29日(土)・30日(日)の2日間、例年どおり図書館1階にある大学史料室を一般公開しました。今年は3月に東日本大震災が発生し、本学も被災したこともあり、今から88年前の大正12年9月1日に発生した関東大震災で、地震と火災により壊滅的な被害を受けた本学が、そこから立ち直り校舎再建に向かっていく姿をポスターで紹介し、それに関係する史料を展示いたしました。東日本大震災から7ヶ月余り、来場した方の関心も高く、熱心に展示史料をご覧になっていて、来場者数は29日・30日両日で365名と大変好評でした。



史料室見学風景：平成23年10月29日(土)、千葉校舎図書館内、大学史料室

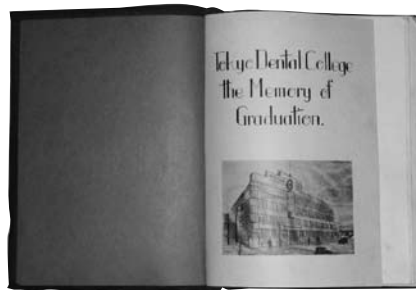


史料室展示ポスター

〈大学史料室から〉

■卒業アルバムの寄贈を受ける

平成23年5月、神奈川県横浜市在住の櫻井秀臣氏から、ご尊父武臣先生（昭和3年卒）の卒業アルバムをご寄贈いただいた。この年のアルバムは史料室で所蔵していないため大変貴重な資料であり、大切に保存し後世に伝えたい。



（昭和3年卒）の卒業アルバム

歯科衛生士専門学校ニュース

■歯科衛生士専門学校登院式挙行

東京歯科大学歯科衛生士専門学校第62期生の登院式が、平成23年10月3日（月）午前11時より、千葉校舎第2教室において、高野伸夫千葉病院長、尾谷始子千葉病院歯科衛生士長の臨席のもと、第1学年と第3学年の学生全員が列席する中で挙行された。

杉原直樹学生部長の司会のもと、高橋俊之副校長の呼名により、62期の登院生一人ひとりが紹介された。はじめに石井拓男校長より臨床実習に臨む心構えについて訓辞を受けた後、来賓として臨席された高野千葉病院長からの訓辞があった。その後、登院生44名を代表して木村慶乃さんが

誓詞を述べ、登院生全員がこれに唱和して式を終了した。



緊張した面持ちで高野千葉病院長の訓辞を聞く登院生：平成23年10月3日（月）、千葉校舎第2教室



登院式が終わったの記念撮影：平成23年10月3日（月）

■歯科衛生士専門学校平成24年度推薦入学選考実施

歯科衛生士専門学校の平成24年度推薦入学選考が、平成23年10月27日(木)に千葉校舎において実施された。募集人員40名の過半数を推薦入学により入学させるものであり、本年は県内から47名、他県から6名の53名が高等学校長の推薦により、また、平成21年度から始めた社会人特別選抜には7名(県内から6名、他県から1名)、合計60名が受験した。選考内容は、高等学校長の推薦は書類審査と基礎学力検査および面接であり、社会人特別選抜は、自己推薦書および書類による審査と、小論文および面接であった。入学選考は、午前9時30分より始まり、午後3時40分にはすべてが終了した。

合格の発表については、10月28日(金)に開かれた選考委員会で決定され、同日付けで出身高等学校長および受験生本人に通知された。

受験者数の推移については、本年度は、昨年度の実績(高等学校長の推薦63名、社会人特別選抜7名の合計70名)と比較して、10名もの減少があった。今後、平成21年度より開始した指定校推薦の継続と県内高校の指定校数の増加、積極的な学校訪問と学校説明会の開催などより積極的な取組をしていく必要があると考えている。昨今の厳しい経済状況とそれともなう就職難という社会状況の中、国家試験合格率100%、就職率100%を誇る本校の実績の継続が大切であると考えている。

■歯科衛生士専門学校第61期生修学旅行

東京歯科大学歯科衛生士専門学校第3学年(第61期生)は、11月13日(日)・14日(月)の1泊2日の日程で富士・箱根方面へ修学旅行に出かけた。



河口湖オルゴールの森にて：平成23年11月13日(日)

模擬試験、卒業論文の提出を終え、一時の休息を求めて、13日(日)早朝、学校集合し、修学旅行がスタートした。まずは、歯科衛生士国家試験合格祈願のため、湯島天神に向かい、ご祈祷後、第61期生全員合格を願い絵馬を結んだ。その後、バスは中央道を走り、河口湖へと向かった。当日は快晴で車窓からは、雲一つ掛かかっていない富士山を望むことができ、皆歓声を上げ、写真撮影を行う者もいた。河口湖畔で昼食をとり、紅葉まつり、河口湖オルゴールの森を見学し、「湖南荘」に宿泊した。

夜はお楽しみの大宴会が行われた。宴会では、当日が誕生日である学生にサプライズで、バースデーソングと共にケーキが登場し、皆で誕生日を祝い、主役の者は嬉し涙を浮かべていた。その後、宴会は更に盛り上がり、カラオケでは、各自が歌やダンスを披露し、お酒も入り大いに盛り上がった。宴会での盛り上がりを通して、第61期生が一致団結していることを確信した。

2日目は、ロープウェイで芦ノ湖を一望し、大涌谷に向かった。その後、富士サファリパークを見学した。

笑顔溢れる貴重な時間を過ごし、気持ちを新た



湖南荘での宴会風景：平成23年11月13日(日)



大涌谷にて：平成23年11月14日(月)

に歯科衛生士国家試験に挑むため、更に一致団結するきっかけとなった。今後も皆で協力し、春まで頑張ることを決意した。

■歯科衛生士専門学校第61期生卒業研究発表報告会開催

東京歯科大学歯科衛生士専門学校では、3年制教育への移行に際して、卒業研究論文の作成を独自のカリキュラムとしてとり入れた。この卒業研究を通して、学生たちには問題発見、問題解決能力を高めることを期待している。具体的には、普段の生活や、講義、実習で、疑問に持っていることのなかから研究テーマとなるものを探しだし、この問題について詳細に調べ問題点を解決するべく、東京歯科大学の各講座研究室および歯科衛生士専門学校に出かけ、卒業研究論文担当の諸先生のご指導により、2年以上の時間をかけて、資料を調べ、論文を読み、試行錯誤しながら、研究の立案や研究方法を選択し、そして実際の実験やフィールド調査などをおこなってひとつの論文にまとめ上げるのである。

第6回目卒業研究の今回は、第61期生全員の研究がまとめられ、285ページにおよぶ厚い卒業研究論文集として発行され、11月24日(木)に、東京歯科大学千葉校舎の講堂で、歯科衛生士専門学校の第1学年、第2学年、第3学年の全員と、論文指導の諸先生やその他の参加者を集め、卒業研究発表報告会が開催された。

発表報告会は、学会形式をとり、受付から、座長、タイムキーパーなどの役をすべて3年生が運営しておこなわれた。午前9時、石井拓男校長の開催挨拶につづき、6分間のPowerPointによるプレゼンテーションと、2分間の質疑応答が始まっ

た。自分の研究を自信を持って発表する様や、フロアからの質問に緊張しながら答える姿は新鮮で、3年間の学生生活の総まとめとして、とても印象的であった。

研究テーマは、基礎から臨床の広い範囲にわたっており、ブラッシングや歯磨剤、フッ化物など口腔ケアに関する研究や、歯科材料、喫煙や食習慣、味覚、言語訓練、さらに東日本大震災の被災地における口腔管理状況の報告などさまざまな角度からのフィールド調査、歯の微細構造、細菌学的研究など多彩で興味を持てるものであった。

はじめの頃は先が見えず、不安がいっぱいの学生たちが、時間をかけて論文が形となっていく、論文集となり、その研究成果を多くの聴衆の前で発表することを通して、大きな達成感を得て行く過程は、学生たちの成長そのものである。この貴重な体験は、卒業後の臨床の場においても大きな自信となって返ってくるのではないだろうか。

今回の卒業論文の指導には、東京歯科大学の阿部伸一、石原和幸、石上恵一、古賀 寛、柴原孝彦、新谷誠康、末石研二、田崎雅和、橋本貞充、眞木吉信、見明康雄、矢島安朝、米津卓郎の各先生そして歯科衛生士専門学校の高橋俊之、杉山哲也、杉原直樹、杉山節子、白鳥たかみ、永井由美子、多田美穂子、江口貴子、福田春花の各講師が、長時間にわたり、親身になって指導していただいた結果であり、学生たちにとっても大変思い出深い経験であり、社会に出るからの大きな自信となると信じている。

長時間にわたる研究発表報告会は、総評のあと全員で記念撮影をおこない、終了となった。その後、食堂の2階でささやかな懇親会が開かれ、なかよかで楽しい時間を過ごし閉会した。



卒業研究発表報告会の風景：平成23年11月24日(木)、千葉校舎講堂



発表報告会終了後の達成感のなかでの集合写真：平成23年11月24日(木)、千葉校舎講堂

人物往来

■国内見学者来校

千葉校舎・千葉病院

- さいたま赤十字看護専門学校（学生 41 名、教員 3 名）
平成 23 年 10 月 7 日（金）解剖学教室、解剖学標本室
- 聖和看護専門学校（学生 37 名、教員 3 名）
平成 23 年 10 月 14 日（金）解剖学教室
- 関東鍼灸専門学校（学生 41 名、教員 4 名）
平成 23 年 11 月 8 日（火）解剖学教室、解剖学実習室、
解剖学標本室
- 旭川歯科学院専門学校（学生 57 名、教員 3 名）
平成 23 年 11 月 9 日（水）解剖学標本室、病院見学、
歯科衛生士専門学校
- 横浜市立盲特別支援学校（学生 27 名、教員 9 名）
平成 23 年 11 月 25 日（金）解剖学標本室、解剖実習室
見学

市川総合病院

- 杏林大学保健学部 臨床検査技師学科（学生 2 名、教員 1 名）
平成 23 年 11 月 11 日（金）角膜センター・アイバンク

水道橋病院

- 広島大学病院（教員 4 名、職員 3 名）
平成 23 年 11 月 30 日（水）病院見学

■海外出張

- 逢坂竜太大学院生（口腔外科）
Foundation for Head and Neck Oncology and 2nd Asian Society of Head & Neck Oncology Meeting において大学院学会発表のため、平成 23 年 10 月 4 日（火）から 12 日（水）までインド・ゴアへ出張。
- 石上恵一教授（スポーツ歯学）
KYUNG HEE UNIV. でのスポーツ歯学に関する講義、第 23 回日本スポーツ歯科医学会アジアスポーツ歯学に関するシンポジウムの打合せのため、10 月 6 日（木）から 9 日（日）まで、韓国・ソウルへ出張。
- 川口 充教授（薬理）
米国国立衛生研究所との研究打ち合わせのため、10 月 11 日（火）から 15 日（土）まで、アメリカ・メリーランド州・ベセスダへ出張。
- 四宮敬史助教（薬理）
米国国立衛生研究所との研究打ち合わせのため、10 月 8 日（土）から 15 日（土）まで、アメリカ・メリーランド州・ベセスダへ出張
- ピッセン宮島弘子教授（水病・眼科）
The 24th Asia-Pacific Association of Cataract & Refractive Surgeons に出席、および発表のため、10 月 13 日（木）から 16 日（日）まで韓国・ソウルへ出張
- 吉野真未助教（水病・眼科）
The 24th Asia-Pacific Association of Cataract & Refractive Surgeons に出席、および発表のため、10 月 13 日（木）から 16 日（日）まで韓国・ソウルへ出張
- 大島キャサリン事務員（水病・眼科）
The 24th Asia-Pacific Association of Cataract & Refractive Surgeons に出席、演者のため、10 月 13 日（木）から 16 日（日）まで韓国・ソウルへ出張
- 小坂橋俊哉教授（市病・麻酔科）
アメリカ麻酔学会出席、および研究発表のため、10 月 15 日（土）から 20 日（木）までアメリカ・シカゴへ出張
- 大内貴志講師（市病・麻酔科）
American Society of Anesthesiologist Annual Meeting 2011 に出席、および発表のため、10 月 14 日（金）から 18 日（火）までアメリカ・シカゴへ出張
- 佐藤尚子臨床専修医（市病・麻酔科）
アメリカ麻酔学会出席および、研究発表のため、10 月 14 日（金）から 19 日（水）までアメリカ・シカゴへ出張
- 松久保 隆教授（衛生）
The 43rd APACPH（アジア・太平洋地区公衆衛生学校連合体）Conference での発表のため、10 月 20 日（木）から 22 日（土）まで韓国・ソウル（Yonsei University）へ出張
- 田中一郎准教授（市病・形成外科）
2011 Chang Gung Mayo Clinic Symposium in Reconstructive Surgery に参加のため 10 月 23 日（日）から 31 日（月）まで台湾・台北へ出張
- 新谷誠康教授（小児歯科）
同済大学児童口腔医学研究所との共同研究実施のため 10 月 24 日（月）から 27 日（木）まで中国・上海へ出張
- 今井裕樹講師、山下治人大学院生（小児歯科）
同済大学児童口腔医学研究所との共同研究実施のため 10 月 23 日（日）から 28 日（金）まで中国・上海へ出張
- 篠崎尚史講師・センター長（角膜センター）
国立眼科病院、ハノイ医科大学訪問、厚生省、農林省との打ち合わせのため 10 月 26 日（水）から 11 月 2 日（水）までベトナム・ハノイへ出張
- 佐野 司教授（歯科放射線）
学長代理にて SEAAD Deans Forum Meeting, DLE Programme に参加するため 10 月 26 日（水）から 11 月 1 日（火）までシンガポールへ出張
- 眞木吉信教授（社会歯科）
中華人民共和国・人民解放軍総医院 301 医院 劉洪臣教授より「中国の歯科口腔領域における高齢者への対応に関する情報交換」及び共同研究を協議するため 10 月 27 日（木）から 29 日（土）まで中国・上海へ出張
- 恩田健志助教（口腔外科）
20th ICOMS（国際口腔外科学会）発表のため 10 月 28 日（金）から 11 月 7 日（月）までチリ・サンチアゴへ出張
- 岡田晶子大学院生（生化）
11th Meeting of the International Society of Geriatric Oncology (SIOG) 参加、および発表のため 11 月 1 日（火）から 7 日（月）までフランス・パリへ出張
- 中野洋子講師（口腔外科）
Montreal International Translational Medicine Conference に出席のため 11 月 1 日（火）から 7 日（月）まで、カナダ・モントリオールへ出張
- 津坂憲政准教授（市病・内科）

- アメリカリウマチ学会 (ACR 2011) に出席、および発表のため11月5日 (土) から11日 (金) まで、アメリカ・シカゴへ出張
- 間 奈津子助教、副島寛貴大学院生、柳沢哲秀大学院生、吉澤佑世大学院生、伊藤幸太大学院生 (歯科保存)
The 13th Joint Meeting between KACD and JSCD (日韓歯科保存学会) 参加のため11月10日 (木) から13日 (日) まで韓国・ソウルへ出張
- 半田俊之講師 (水病・歯科麻酔)
口唇口蓋裂児を中心とする口腔先天異常疾患患者への医療扶助・技術指導、および学術調査のため11月13

- 日 (日) から26日 (土) までベトナム・ホーチミンへ出張
- 丸茂 健教授 (市病・泌尿器科)
第13回アジア太平洋性機能学会の参加、および発表のため11月16日 (水) から20日 (日) まで台湾・高雄へ出張
- 渡邊 章助教、成田真人助教 (口腔外科)
The 50th Congress of the Korean Association of Maxillofacial Plastic and Reconstructive Surgeons (KAMPRS2011) 参加のため11月17日 (木) から19日 (土) まで韓国へ出張

大学日誌

平成23年10月

- | | | | |
|--------|---|--------|---|
| 1 (土) | 市病フォーラム第15回市民公開講演会
[於：市川グランドホテル](市病)
平成24年度第8回看護師採用選考試験
(市病) | 14 (金) | 感染予防対策チーム委員会(水病) |
| 2 (日) | 入試ガイダンス[於：水道橋校舎] | 15 (土) | 第292回東歯学会(総会)
平成24年度第9回看護師採用選考試験
(市病)
午後のリサイクル(市病)
患者サロン(市病)
電気設備点検[於：いしづかビル]
(水病) |
| 3 (月) | 1～4年生後期授業開始
教務部(課)事務連絡会
衛生委員会
千葉病院臨床研修管理小部会
歯科衛生士専門学校登院式
防火・防災安全自主点検日 | 16 (日) | 第292回東歯学会(総会) [於：水道橋校舎] |
| 4 (火) | 学年主任・クラス主任会
歯科衛生士専門学校1年生後期授業開始
給食委員会(水病) | 17 (月) | 病院運営会議
個人情報保護委員会
医療安全管理委員会
感染予防対策委員会(ICC)
臨床教育委員会
医局長会
教養科目協議会
医療安全研修会
環境清掃日
危険物・危険薬品廃棄処理日 |
| 5 (水) | リスクマネジメント部会
ICT会議
学生部(課)事務連絡会議
歯科衛生士専門学校2年生臨床実習開始
口腔健康臨床科学講座会(水病)
科研費説明会(水病) | 18 (火) | 臨床教授連絡会
講座主任教授会
人事委員会
医療サービスに関する検討会
医療安全管理委員会(市病)
後期健康診断実施日(市病) |
| 6 (木) | 感染制御委員会(市病)
手術室運営委員会(市病) | 19 (水) | 大学院運営委員会
大学院研究科委員会
後期健康診断実施日(市病) |
| 7 (金) | ICLSインストラクター講習(市病) | 20 (木) | 千葉校舎課長会
業務連絡会
高度・先進医療委員会
機器等安全自主点検日
部長会(市病) |
| 8 (土) | 臨床実習中の効果的な教育を考える
ワークショップ[於：水道橋校舎]
(～9日)
2F合同医局・更衣室他・3F総務課引越
(～10日)(水病) | 22 (土) | 第4回360度評価のための研修ワーク
ショップ【テーマA】
平成24年度第10回看護師採用選考試験
(市病) |
| 11 (火) | 消防設備点検[於：いしづかビル](水病) | 24 (月) | 医療連携委員会 |
| 12 (水) | 看護部運営会議(市病)
リスクマネジメント部会(水病)
薬事委員会・医薬品安全管理委員会
(水病) | | |
| 13 (木) | カルテ指導委員会
平成24年度予算編成打ち合わせ会 | | |
| 14 (金) | 大学院運営協議会
ICLS (市病)
ICT委員会(市病) | | |

24 (月)	第106回歯科医学教育セミナー 電子カルテシステム運用管理委員会 (市病) NSTカンファレンス・勉強会(市病) 教職員研修会(水病) 医療安全管理委員会(水病) 感染予防対策委員会(水病) 個人情報保護委員会(水病) 医療連携プロジェクト委員会(水病) 科長会(水病)	8 (火)	推薦、帰国・留学生選抜、編入学A、 学士等選抜A願書受付締切 歯科衛生士専門学校臨床実習委員会 東京都エイズ診療従事者臨床研修 (第2日目)
25 (火)	6年生第3回総合学力試験(～26日) データ管理者会議 カルテ整備委員会 診療記録管理委員会	9 (水)	基礎教授連絡会 大学院運営委員会 大学院研究科委員会 看護部運営会議(市病) リスクマネージメント部会(水病) 薬事委員会(水病) 医療機器安全管理委員会(水病)
26 (水)	看護部運営会議(市病) データ管理者会議(水病) 病院連絡協議会・診療録管理委員会 (水病)	10 (木)	カルテ指導委員会 第335回大学院セミナー 医療安全研修会 ICC(市病) 手術室運営委員会(市病)
27 (木)	1～6学年インフルエンザ接種 第334回大学院セミナー 歯科衛生士専門学校推薦入学選考 管理診療委員会(市病)	11 (金)	ICLS(市病) ICT委員会(市病) インフルエンザワクチン接種(予備日) (水病) 感染予防対策チーム委員会(水病)
28 (金)	東歯祭準備 歯科衛生士専門学校推薦入学選考委員会 災害対策実施部会(市病) 後期健康診断実施日(市病)	12 (土)	推薦入学選考、帰国子女・留学生特別 選抜、編入学試験A、学士等特別選抜A [於：東京、大阪、福岡会場]
29 (土)	第43回東歯祭(～30日) CBTを利用した国試の現状把握(講師・ 助教)[於：水道橋校舎]	13 (日)	歯科衛生士専門学校3年生修学旅行 (～14日)
31 (月)	東歯祭片付け	14 (月)	病院運営会議 個人情報保護委員会 医療安全管理委員会 感染予防対策委員会(ICC) 臨床教育委員会 医局長会
平成23年11月			
1 (火)	推薦、帰国・留学生選抜、編入学A、 学士等選抜A願書受付開始(～8日) 振替授業(金曜日分) 総合講義検討委員会 防火・防災安全自主点検日	15 (火)	公認会計士中間監査(～18日)(大学・ 千病・衛校) 臨床教授連絡会 講座主任教授会(推薦、帰国・留学生 選抜、編入学A、学士等選抜A合格判 定を含む) 人事委員会 環境清掃日 危険物・危険薬品廃棄処理日
2 (水)	リスクマネージメント部会 ICT会議 教務部(課)事務連絡会 インフルエンザワクチン接種(水病) 口腔健康臨床科学講座会(水病)	16 (水)	褥瘡対策委員会(市病) 医療安全管理委員会(市病) 学生部(課)事務連絡会議 衛生委員会 輸血療法委員会(市病) CPC(市病)
4 (金)	1～6学年インフルエンザワクチン接種 大学院運営協議会	17 (木)	業務連絡会 第336回大学院セミナー 高度・先進医療委員会 部長会(市病) 医療安全管理委員会(水病) 感染予防対策委員会(水病)
5 (土)	CBTを利用した国試の現状把握(講師・ 助教)[於：水道橋校舎] 第6回東京歯科大学公開講演会 平成24年度第11回看護師採用選考試験		
7 (月)	平成23年度大学院紹介[於：水道橋校舎] 千葉病院臨床研修管理小部会 公認会計士中間監査(～11日)(市病) 薬事委員会(市病) 東京都エイズ診療従事者臨床研修(第1 日目)(水病)		

17 (木)	個人情報保護委員会(水病) 医療連携プロジェクト委員会(水病) 科長会(水病)	22 (火)	(市病) 看護部運営会議(市病) データ管理者会議(水病)
18 (金)	医療連携協議会 インフルエンザワクチン接種実施日 (市病)	24 (木)	病院連絡協議会・診療録管理委員会 (水病) 千葉校舎課長会 第337回大学院セミナー 管理診療委員会(市病)
19 (土)	口腔ケアセミナー (市病) 修学指導関係者・父兄個別面談会 (1～6学年) 平成24年度第12回看護師採用選考試験 (市病) 午後のリサイクル(市病) 患者サロン(市病)	25 (金)	大学院入学試験(I期)願書受付締切 クリニカルパス委員会(市病) 災害対策実施部会(市病)
21 (月)	防災訓練 第107回歯科医学教育セミナー 機器等安全自主点検日 インフルエンザワクチン接種実施日 (市病) 公認会計士中間監査(~24日)(水病・ 法人) 理事会(法人) 評議員会(法人)	28 (月)	褥瘡対策委員会 教養科目協議会 電子カルテシステム運用管理委員会 (市病) 教職員研修会(水病)
22 (火)	インフルエンザワクチン接種実施日	29 (火)	薬事委員会 データ管理者会議 カルテ整備委員会 診療記録管理委員会
		30 (水)	図書委員会 糖尿病ケアチームカンファレンス (市病)

東京歯科大学広報 編集委員

橋本貞充 (委員長)

石塚順子 井上直記 上田貴之 内田篤志 王子田啓 狩野龍二 椎名裕
新谷益朗 高橋俊之 武本桂 中村弘明 日塔慶吉 旗手重雅 古澤成博
前田健一郎 百崎和浩 山本祐樹
(平成23年12月現在)



編集後記

10月の終わり、「秋」の千葉キャンパスで、主役の学生達が弾けました。

43年目の東歯祭、テーマは「真」。井上高暢実行委員長のもと、2,500人もの来場者を集め、普段は見られないような、たくさんの学生達の笑顔に出会いました。いつもの講義では後ろの方に隠れて目立たない、ちょっと肩身の狭かった若者のなかから吹き出す熱いちから。なんと多才なこと。ひとり一人の中にすごいエネルギーが眠っているのです。この多様性がある学生達ならきっと大丈夫！と思わせてくれます。「あきらめなければ何でもできる！」との井上くんの言葉に、グンと背中を押される気がします。

岐阜の長良川河畔で開かれた歯科基礎医学会で5年生の田中らいらさんと3年生の高橋史子さんが共に学部学生部門の「ポスター賞」を受賞しました。生理学講座での卒業研究の成果の発表です。臨床や試験勉強の合間に頑張って作り上げたポスターの前で、他大学の研究者たちの質問に、臆することなく長時間にわたって答えている姿は、どこかの大学院生の発表？と思わせるほどでした。外の世界の研究者との交流を通じて、もっと自由で深い発想の大切さを感じ、基礎研究や歯科の臨床に、興味と楽しさを見つけていくのでしょうか。「大学では研究を行っている学生は少数派で、友人や外の人たちと研究について話すことはない」とのことですが、まわりの友達だって、きっと本当は、ちょっとおもしろそうだなって思っているのでは？学生の皆さん、ぜひ卒論にチャレンジしてみませんか？

この卒業研究、歯科衛生士専門学校では、第61期生の全員が講堂の舞台上で、6回目になる学会形式の発表会を開きました。夏休みの大事な時間を使い、授業後も遅くまで残り、指導の先生を走り回ってつかまえてはアポイントを取り、慣れない研究に四苦八苦しながら、長い時間を掛けて何とかまとめ上げた卒業論文です。はじめの頃はなかなか興味が持てず、文句も一杯。しかし、300ページ近い卒業研究論文集が完成し、壇上での緊張の発表が終わったあとの達成感、どれ程大きなものだったのでしょうか。

タイのバンコクで開催されたアジア太平洋歯科学生大会(Asia Pacific Dental Students Association)に、4年生の本田健太郎くんをリーダーとして1年生の3名を含む国際医療研究会のメンバー9名が参加したとのこと。報告書の行間からは、英語でのコミュニケーションに苦労しながらも、自分と同じように歯科医師を目指して学ぶアジアの仲間達と、一歩前に踏み出して交流する彼らのいき生きとした姿が、目に見えるようです。

11月勤労感謝の日、満員の講堂。東京歯科大学管弦楽団のメンバーが奏でるドルビルザーク「交響曲第3番」。学生と学内外の卒業生達が年齢を超え、ひとつになって創りあげる音は、終盤のクライマックスに向けて大きく響き渡っていきました。

(広報・公開講座部長：橋本貞充)



「冬の日差しが差し込むエントランス」
季節の移り変わりは、一瞬、建物の中にはとつような表情をつくります。ガラスを通した柔らかな陽の光はこころのなかにも暖かさを届けます。